

株式会社ジェイコムイースト 西東京局

放送番組審議会 議事録

平成 28 年度（2016 年度）株式会社ジェイコムイースト西東京局放送番組審議会は、
2017 年 3 月 14 日(火) J:COM 西東京にて開催された。

【放送番組審議会委員】

ご出席

高木 亮教 様
松永 和子 様
下崎 闊 様
坂井 明成 様
植田 貴俊 様
新井 啓明 様
鈴木 信克 様

ご欠席

新井 一寿 様
渋谷 千春 様
児山 晃生 様

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】 進行：高木会長

■「デイリーニュース」について

委員

「デイリーニュース」で特殊詐欺に対する警視庁からのお知らせを取り上げているが、高齢者がちゃんと理解できるように今以上にゆっくりと見せたら良いのではないだろうか。実際に自分にも電話がかかってきて、警察に相談した経験がある。

事業者

確かに西東京市は近隣エリアでも特殊詐欺の被害件数が突出しているの、さらに地域への啓蒙に力を入れていくべきだろう。特殊詐欺に関しては、ほぼ毎日番組内で注意喚起をしている。

委員

ローカルな情報や人物を取り上げているので市民が共感できる。エリアに特化しているので、「知り合いが出ていた」と関係者から報告が入ることも多く、こうした取り組みは継続して欲しい。

YouTube 配信などの二次利用が難しいことは昨年お聞きしたが、「番組で知人を見かけた」という口コミが視聴につながるの、再放送は翌日か翌々日でも良いのではないか？

事業者

「デイリーニュース」は生放送のため、同じ映像を別日に流すと視聴者の誤解を招いてしまう。翌日以降に再放送を行う際は「過去のニュース」だとわかるようテロップ等で処理が必要になるが、今後はスマホアプリなどで好きなときに見られるようにしていきたい。

委員

「デイリーニュース」には地元の知っている場所がたくさん出るし、近隣の住人でも知らない情報がわかって良い。近所のことは詳しくても、自分の暮らす地域のことをご存知ない方も多いため、地域メディアとして役立っていると感じる。ネタを集めるのは大変だと思うが、情報交換しながら進めていきたい。

■「たまろくと人図鑑」について

委員

市長が出演すると PR に終始してしまいがちだが、MC の有賀氏のおかげでパーソナルな部分が引き出されて身近に感じられた。ゲストには肩書きの立派な著名な方が多いが、市井の人でも片隅で奉仕活動をされている方もいらっしゃるの、是非スポットライトを当ててあげて欲しい。自分から語ることが苦手な人もいるが、質問されたら心を開いて話してくれるはず。

事業者

もちろん人知れず頑張っている方も呼びしていきたい。ゲストは過去の出演者からも紹介して頂いているが、ご本人も含めて推薦をお願いしたい。地域にとって財産となるような知識人や有識者を市民の皆様に知ってもらいたい。事業を興されている方もご出演されている。有賀氏は事前インタビューや打ち合わせも念入りにされるので人柄に迫れるのだと思う。

委員

いろいろ新しい試みをされているが、極めて地域密着だと感じているし継続して欲しい。いつかゲストが見つからない場合も考えられるので、「テレフォンショッキング」のようにゲストが次回のゲストを紹介すると面白いのでは？

事業者

同様のアプローチを考えているが、5 市でゲスト枠を回しているので、偏りがないように配慮しながら進めていきたい。

委員

視聴者がゲストの選定に違和感を覚えることがあるかもしれない。明確な選考基準を整理しておくと思う。

委員

同じ放送局として、意図的な手書きのネームプレートやボードの手作り感が良い。きっちりしたセットを使うより安心して見られるし、会話に参加したくなる。視聴者との距離を縮めることに成功していると感じる。

■「西東京市長選挙 開票速報」について

委員

統一地方選挙でもない限り TV で取り上げられることもなく、翌朝の新聞に掲載されないこともあるので、今回の放送はありがたい。これまでは市の HP で結果を公示するぐらいだった。候補者の素顔が見られて非常に良かった。今後も続けて欲しい。

■「生中継！第 8 回中学生東京駅伝大会」について

委員

ただ生中継を行うだけでなく、事前に「デイリーニュース」で選手たちに取材を行っていた点が良かった。選手の保護者や友人といった周囲を引き込めるし、近所の方々も親しみを持ってくれるだろう。

事業者

夏の高校野球では練習風景から事前取材を前広に行い、チームのPRにも力を入れた。
全部の学校で部員の集合映像とキャプテンの抱負を撮影することができた。

■「ざっくろダンス甲子園」について

委員

公園や生涯学習センターでダンスを練習している子供を見かけて微笑ましく思っていた。会場の盛り上がりは相当なので、舞台裏で夢中になっている母親たちにスポットライトを当てると熱気が伝えられるのでは。

事業者

今後は多摩地区から参加者を募る地域の大きなイベントに育てたいと考えている。

J:COM 全体としてもダンスに力を入れており、去年は横浜市のご協賛で高校生のダンスイベントを全国放送した実績もある。来年も続けていきたい。

委員

継続することで、今年の出場が叶わなかった子供も「来年こそ」と期待を持つことができる。

■編成方針に関して

委員

是非 自治体連携の強化を進めていって欲しい。続けることで清瀬市での認知も上がっていくだろう。

委員

新しい番組が立ち上がっているが、今までと異なるプロモーションを行っているか？

事業者

知って頂くことが重要だと考えている。

「中学生東京駅伝」では練習の場に足を運んでチラシ配布、学校にポスターを貼らせてもらうなど、口コミに近い訴求方法を試してみた。自社チャンネルでCMを流す以外の方法で、街の方に知って頂くような施策を行ってきたい。

事業者

「デイリーニュース」ではPRしたい番組から切り出した映像を流して視聴誘導を図っている。
また、SNS を駆使して放送日時の訴求や撮影の様子を発信している。

委員

高齢者はインターネットを見ないので、口コミで拡散していける地域活動を考えると良いかもしれない。

委員

昨年 小平市観光まちづくり大使の大林素子さんを招いて公開収録を行ったが、地産地消の PR として賛同してくれた JA の会場を借りることで、市の広報誌で訴求することができた。

番組だけでは難しいが、組み合わせによっては市の施策を進める内容となり掲載が可能になる。

紙媒体や SNS によって拡散していけると、より広がりが出るだろう。

委員

まずは市民の目に少しでも触れるように提案を行うことが大切。

委員

「東京生テレビ」で「東久留米七福神めぐり」が紹介されていたが、お寺の情報が少なかった。エピソードを織り交ぜて見せるなど、今後の工夫に期待する。

事業者

最近では競合相手がスマホやタブレットを使用するメディアとなった携帯会社が変わってくるなど、J:COM の業態も大きく変化してきた。今後は地域での存在感をどう出していくのが課題。地域メディアとして役割をこれから果たしていく。

以上